

意見や考えを交換し合う生徒と住民たち（桃山中で）



桃山中

地域住民と1対1で語り合い 200人が輪になり「トークフォークダンス」

桃山中（糸本康浩校長）で15日、地域住民と生徒が1対1で会話を楽しむ「トークフォークダンス」が開かれた。2年生と地域住民の各100人が1分ごとにペアを替えながら、日常の身近な話題や将来の夢を語り合い、心を通わせる濃密な時間を過ごした。

県の指定を受けた「あこがれの連鎖で紡ぐキャリア教育推進事業」の一環。同校の高橋亜衣弓さんと伊藤皇貴さんが歓迎のあいさつをした後、和やかなムードで交流がスタートした。

会場には大きな二重の輪がつくられ、住民が内側、生徒が外側で向き合っ

は」「何かに挑戦する際、必要なことは」といった問い掛けに対し、住民たちは自身の人生経験や価値観を述べ、生徒たちは身を乗り出すようにして聞き入っていた。

生徒たちは対話に当たって、「相手の話を最後まで聞く」「否定せず、笑わない」といったルールを共有。初めは緊張した面持ちだったが、住民の優しいまなざしやうなずきに背中を押され、次第に身ぶり手ぶりを交えながら生き生きと思いを口にするようになった。

同校の原田心愛さんは「家族以外の大人とじっくり話す機会はめったにないので、とても新鮮な気持ちになれた。頑張っているバレーボールのこ

とを褒めてもらえてうれしかった。きょうの体験を自分の未来に生かしたい」と笑顔で振り返った。

新内雅夫さん（75）＝南小串2丁目＝は「みんな素直で表情が明るく、自分の考えを自分の言葉でしっかり説明してくれ

て頼もしかった。音楽やスポーツへの関心の高さも伝わり、元気をたくさんもらった」と満足そうだった。
（西川）